

グラフで見る東海経済(2022年6月)

2022年6月29日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ~持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

- トヨタ自動車の生産計画は、6月を底に7月以降に持ち直しを見込むが、下振れの可能性も。
- 実質輸出(4月)は小幅ながら3カ月ぶりに低下した。
- 公共投資(5月)は、前年比で大幅減となったが、均してみると横ばい圏で推移。
- 4月の生産は未公表のため、判断は前月と同じ。

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きがみられる
生産	持ち直しの動きがみられる
輸出	足踏み状態(↓)
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移
公共投資	横ばい圏で推移(↓)

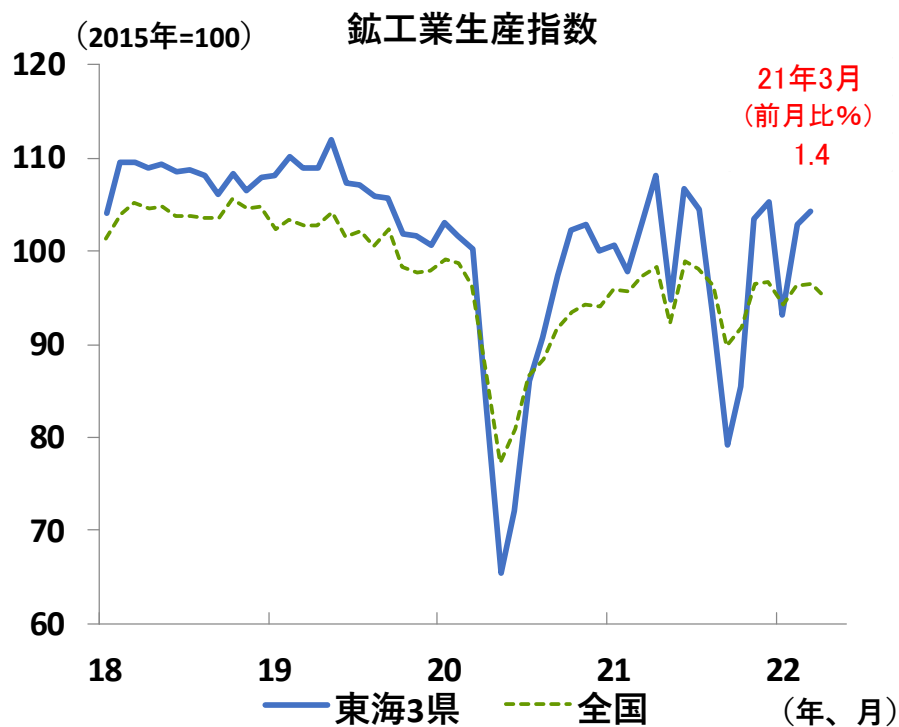
注: ()内は前月からの変化の方向

輸出は、「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

公共投資は、「増加している」から下方修正(↓)

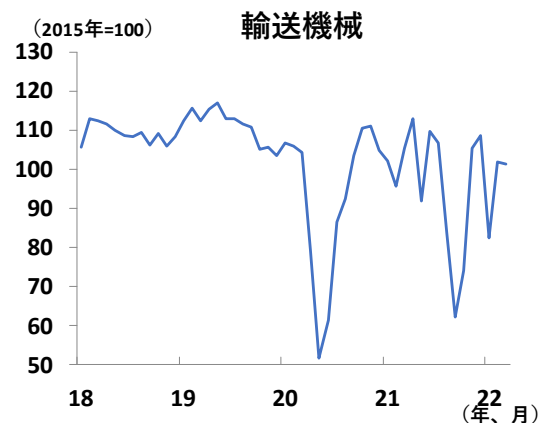
生産 ※4月の生産は未公表のため、3月確報値までを掲載

3月の鉱工業生産(東海)は前月比+1.4%と2ヵ月連続で増加し、持ち直しの動きがみられる。輸送機械、電気機械が減少したが、汎用・生産用・業務用機械、電子部品デバイスが増加した。



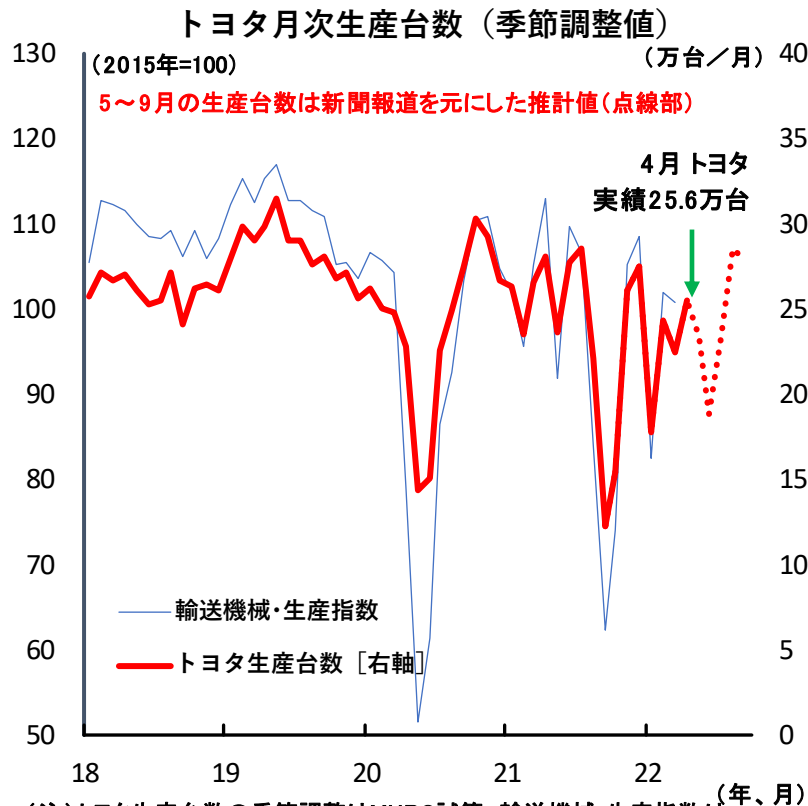
※ 東海の鉱工業生産指数の最新値は3月

(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

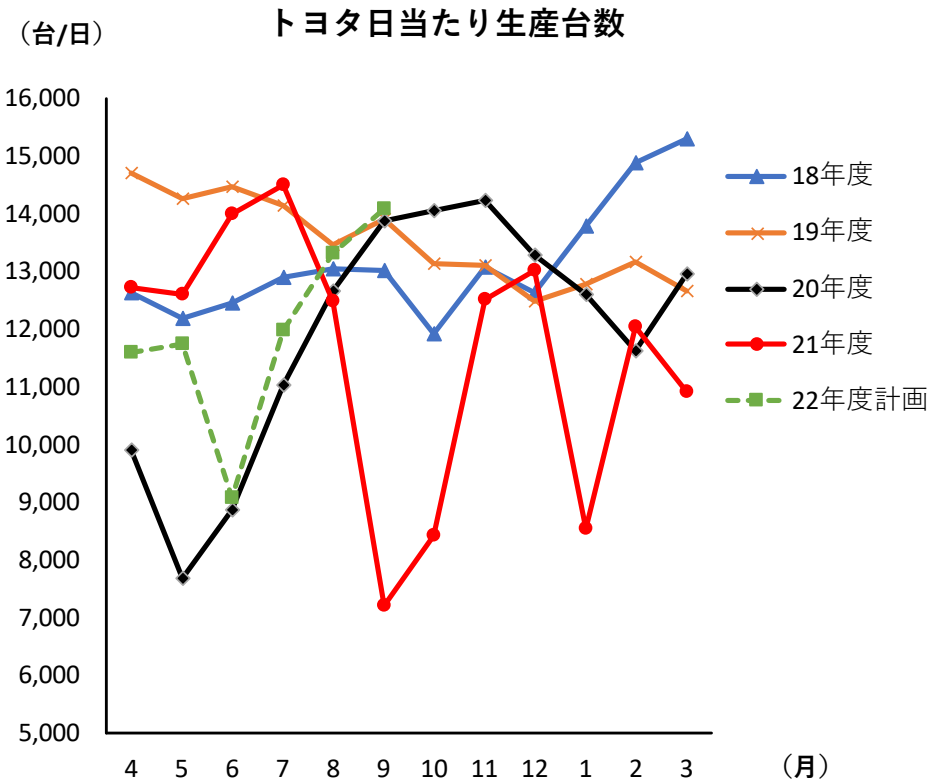


生産（トヨタ生産計画）

4月のトヨタ生産台数（弊社季節調整値）は25.6万台と前月から増加したが、半導体調達難により当初計画から下振れとなった。先行きは、5月、6月と水準を下げた後、7月以降、生産ペースを上げていく計画だが、半導体不足継続による下振れの可能性も。



(注)トヨタ生産台数の季節調整はMURC試算、輸送機械・生産指数は東海3県のもの
 (出所)中部経済新聞、鉄鋼新聞、中部経済産業局「鉱工業生産指数」

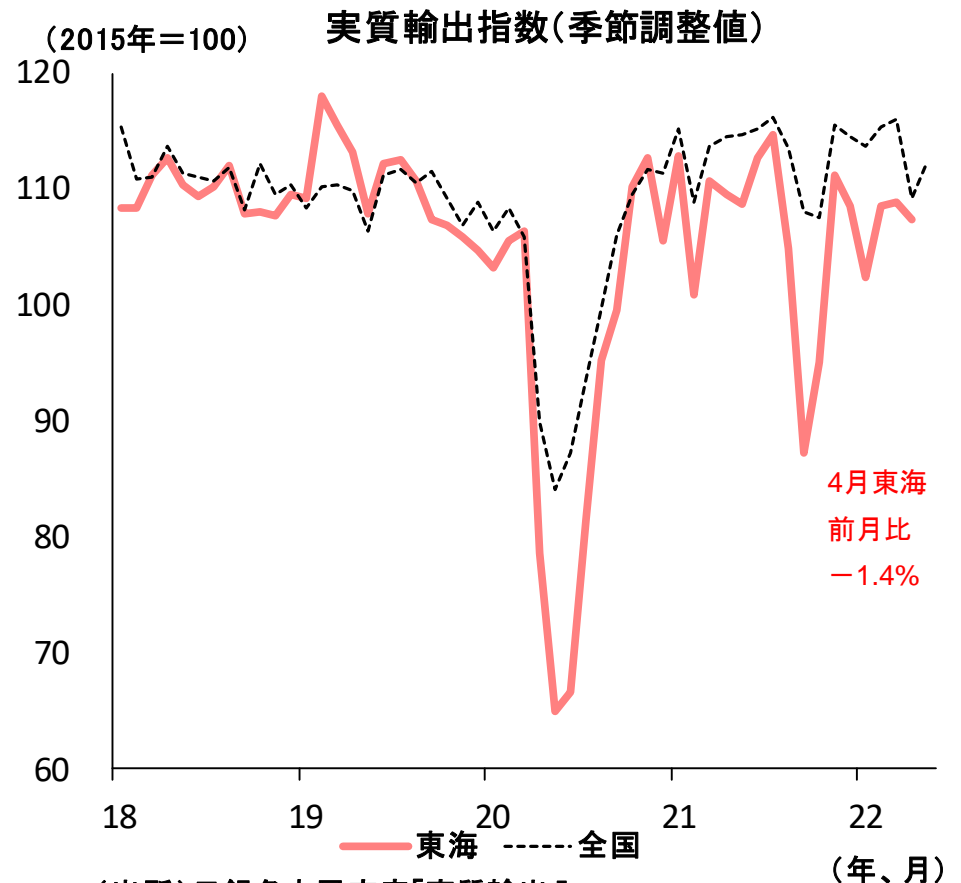
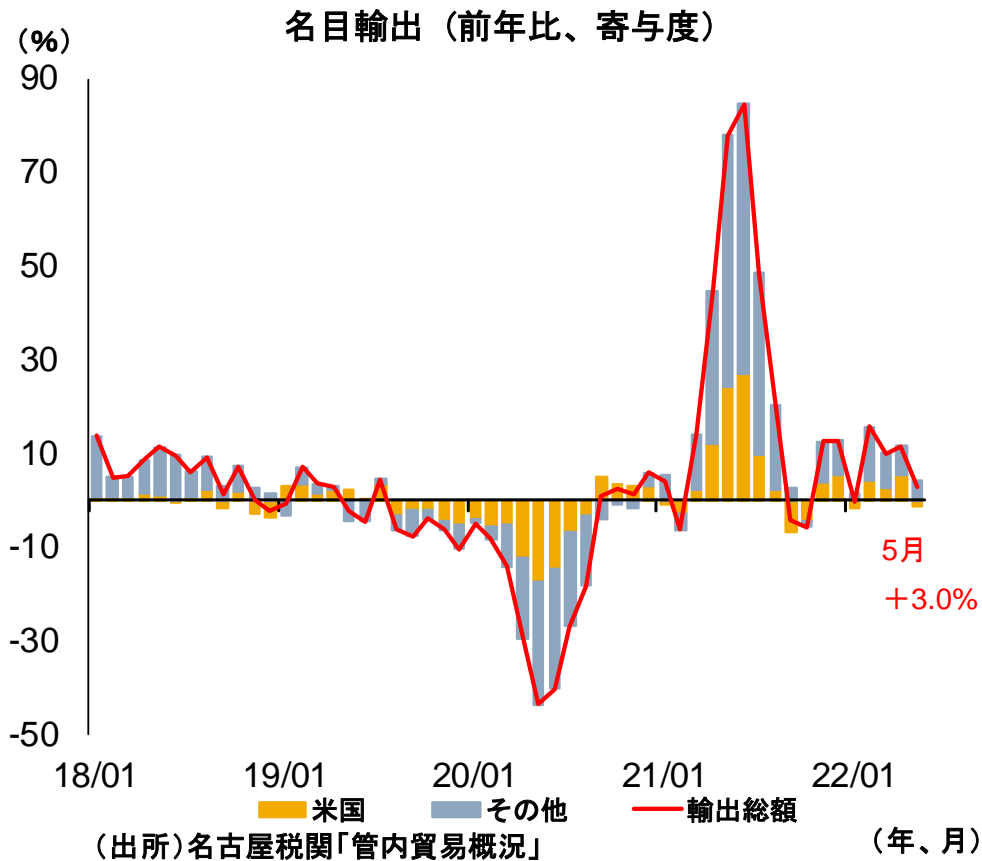


(出所) トヨタ自動車HP、中部経済新聞、鉄鋼新聞

輸出

5月の名目輸出額は、自動車などが減少したものの、石油および同製品、鉄鋼などが増加し、トータルでは前年比+3.0%と4カ月連続で増加した。地域別では米国向けが減少したが、アジア向けが増加した。品目別では、自動車が金額ベースで同-5.3%の減少、数量ベースでは前年比でほぼ半減となった。

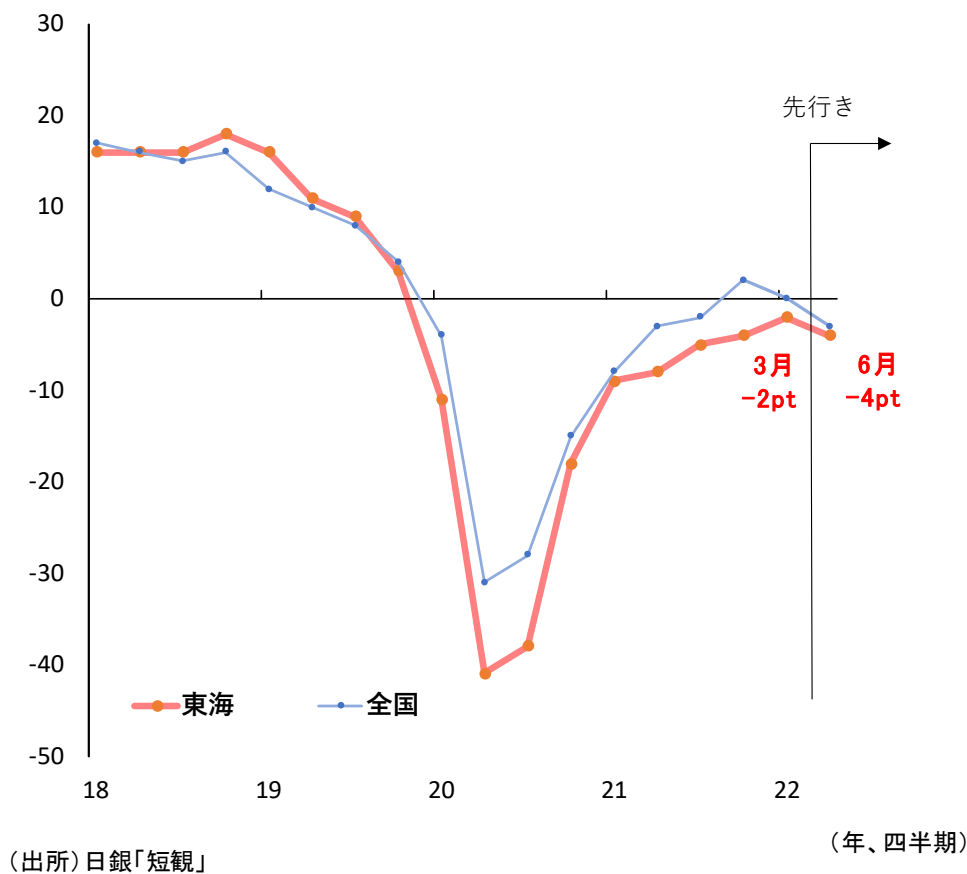
4月の実質輸出指数(季節調整値)は前月比-1.4%と3カ月ぶりに低下した。



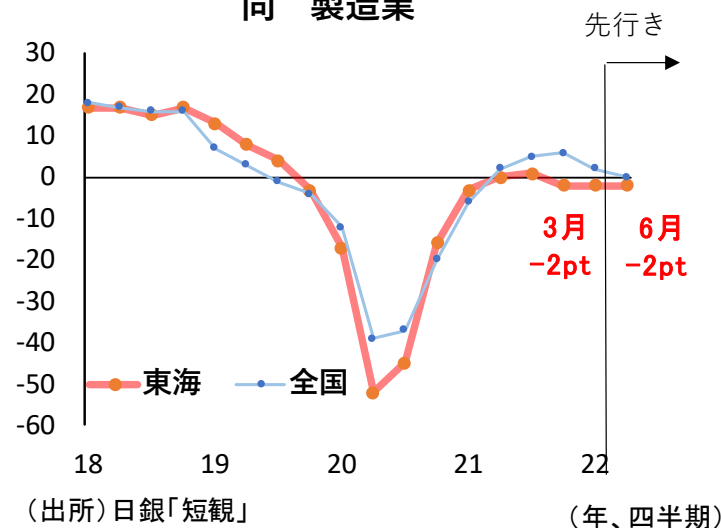
企業景況感(日銀短観) ※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査の業況判断DIIは全産業で-2ptと12月調査(-4pt)から小幅改善した。製造業は-2ptと小幅悪化、非製造業は-4ptと小幅改善したが宿泊・飲食サービスは一段と悪化した。先行きは、製造業で横ばい、非製造業で悪化が見込まれている。

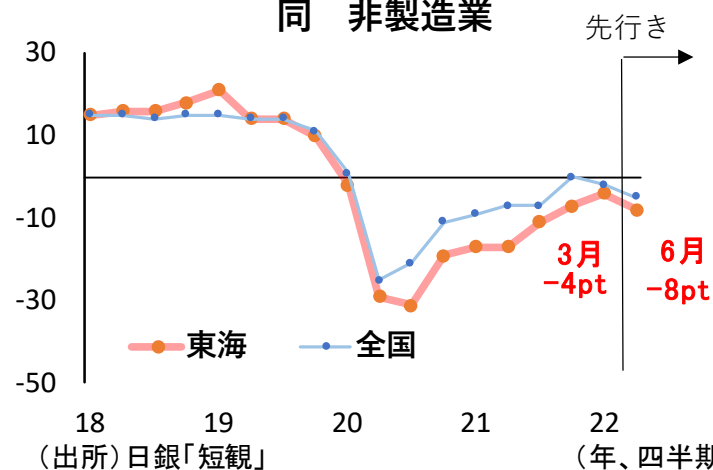
短観 業況判断DII「全産業」



同 製造業

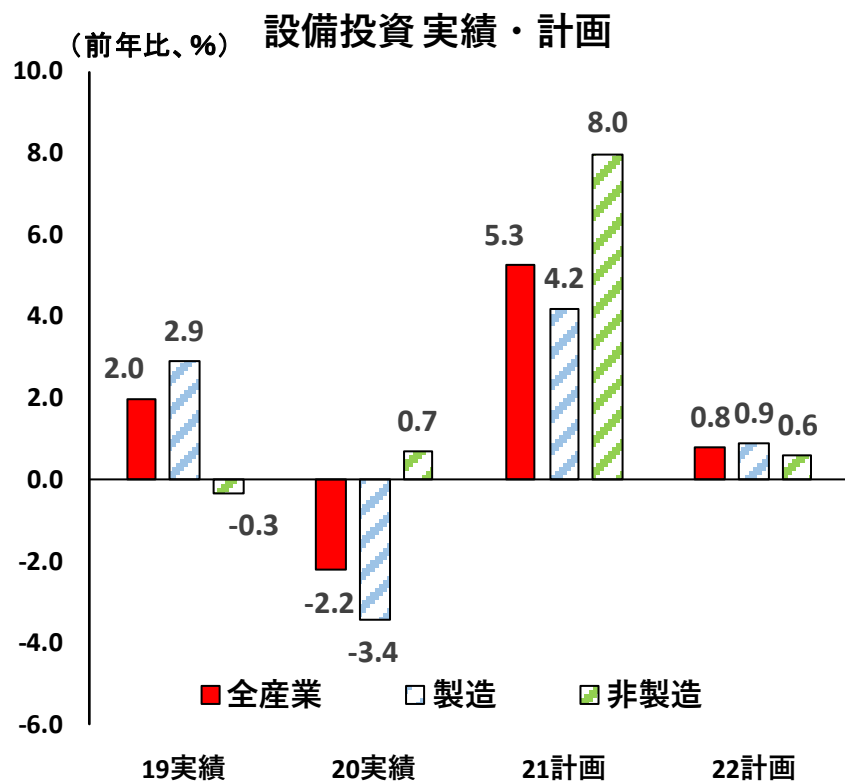


同 非製造業



設備投資※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査によると、21年度の設備投資計画は、12月調査から下方修正となったが前年比+5.3%と増加が見込まれている。製造業、非製造とも増加の見込み。22年度も増加の計画であるが、伸び率は縮小する見込みである。



(出所)日銀名古屋支店「短観」

(注)含むソフトウェア・研究開発、除く土地投資

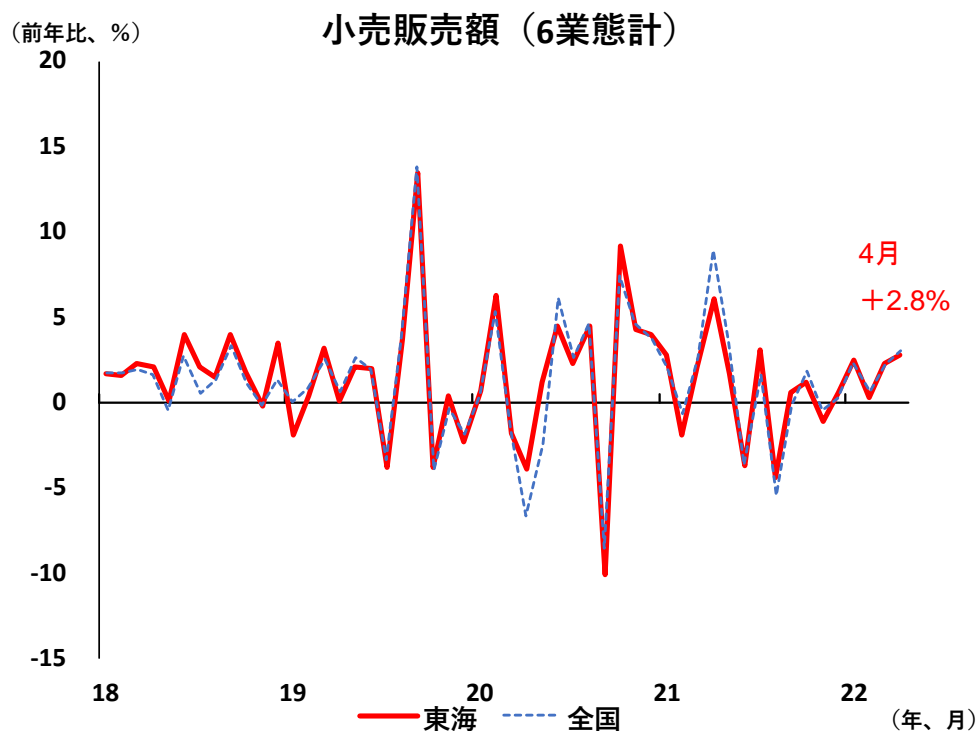
設備投資額 (前年比%)

	20年度実績	21年度計画		22年度計画
		今回調査	前回調査 (前回調査との差異)	
全産業	-2.2	5.3	(-0.5)	5.8
製造業	-3.4	4.2	(-0.4)	4.6
非製造業	0.7	8.0	(-0.5)	8.5

個人消費(小売売上、自動車販売)

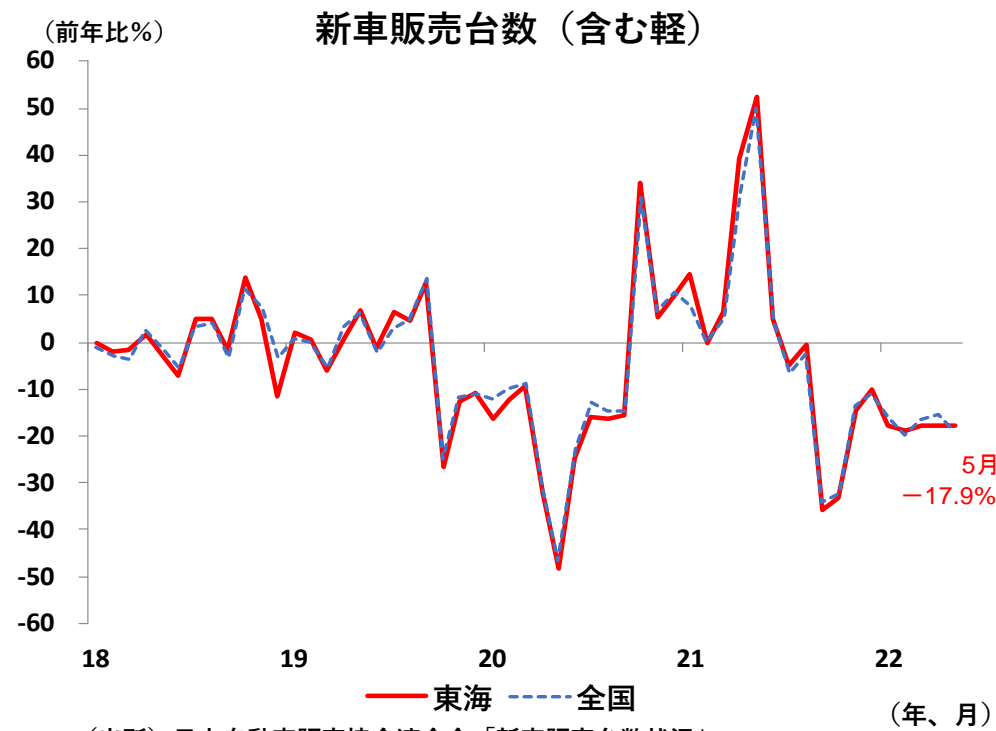
4月の小売販売額は前年比+2.8%と5ヵ月連続で増加。コロナ前の2019年比でも+4.7%と増加した。先行きは、人流の戻りがプラス材料となる一方、物価上昇による消費抑制が懸念材料に。

5月の新車販売は、半導体など部品供給不足による生産調整の影響により、前年比-17.9%と11ヵ月連続で減少した。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

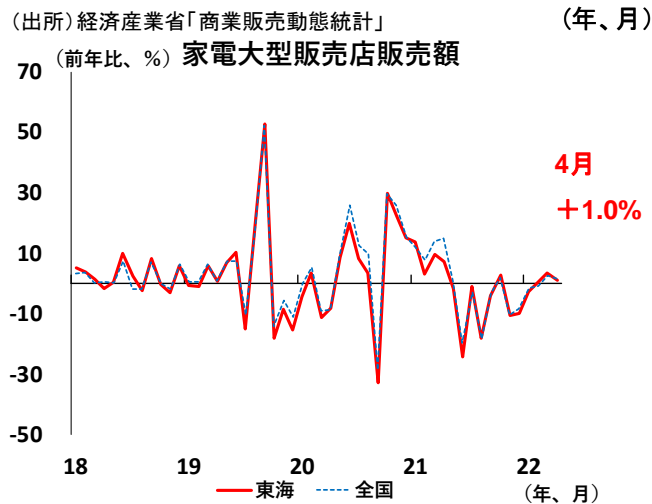
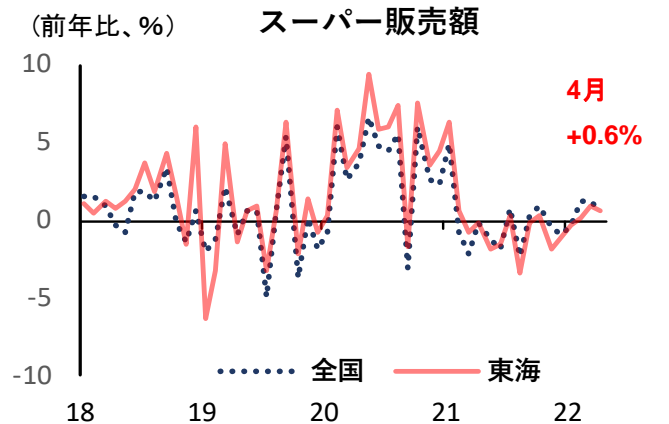


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
 全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

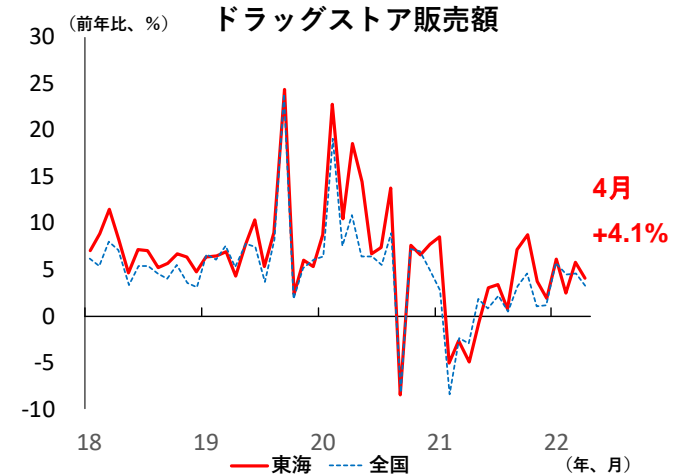
個人消費(業態別)

4月の小売販売(東海)は、ホームセンターを除く5業態で前年比増加となった。

5月の百貨店売上(名古屋)は、前年比+39.7%と8ヵ月連続で増加した。前年が行動制限下であった反動で高い伸びとなったが、コロナ前の同月(2019年5月)比では-4.8%と水準は高くない。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

(注) 店舗調整後前年比

マインド・景況感

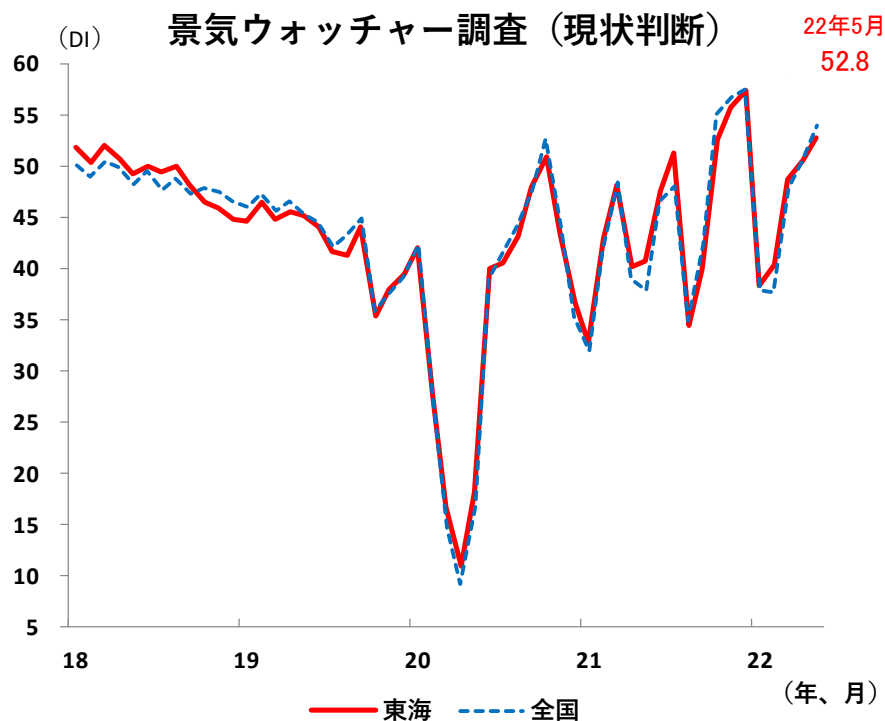
5月の消費者態度指数は35.1と8カ月ぶりに上昇した。

5月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、GWの人流が戻ったことなどが影響し、前月差+2.3%ptの52.8と4カ月連続で上昇した。



(注)東海の季節調整値はMURC試算

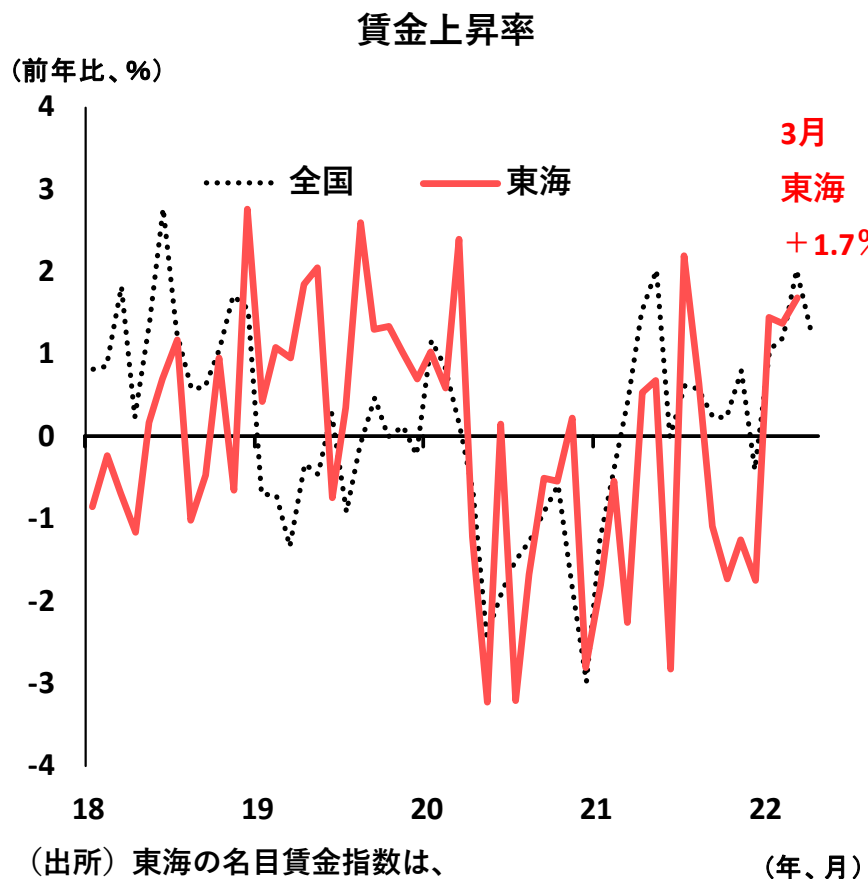
(出所)内閣府「消費動向調査」



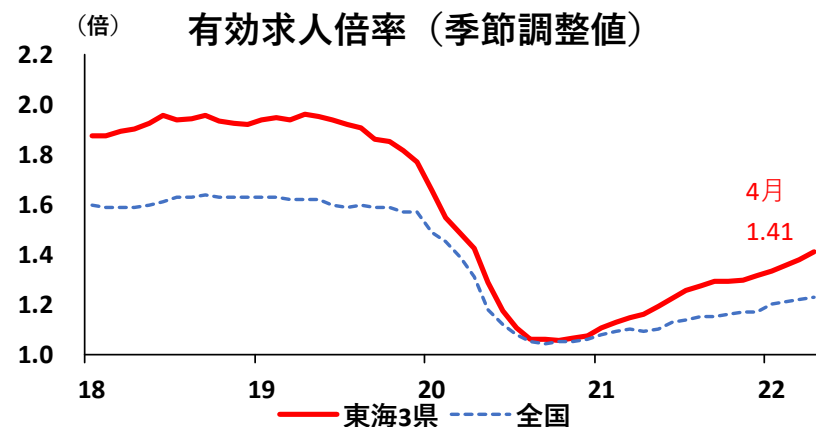
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

賃金・雇用

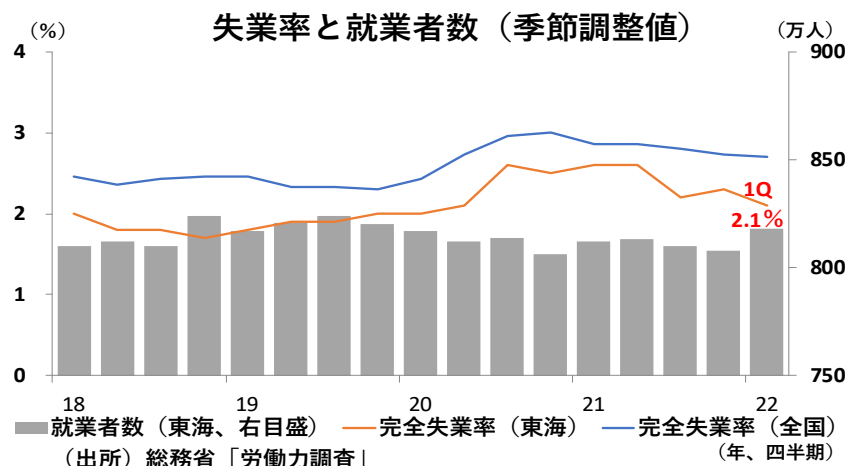
3月の名目賃金は、前年比+1.7%と3カ月連続で上昇した。4月の求人倍率は1.41と前月から小幅上昇。全国に比べ求職者数増加の度合いが低く、求人倍率は高めで推移している。22年1-3月期の失業率は2.1%と低下。就業者数は増加した。



(出所) 東海の名目賃金指数は、
愛知、三重、岐阜の指数よりMURC作成

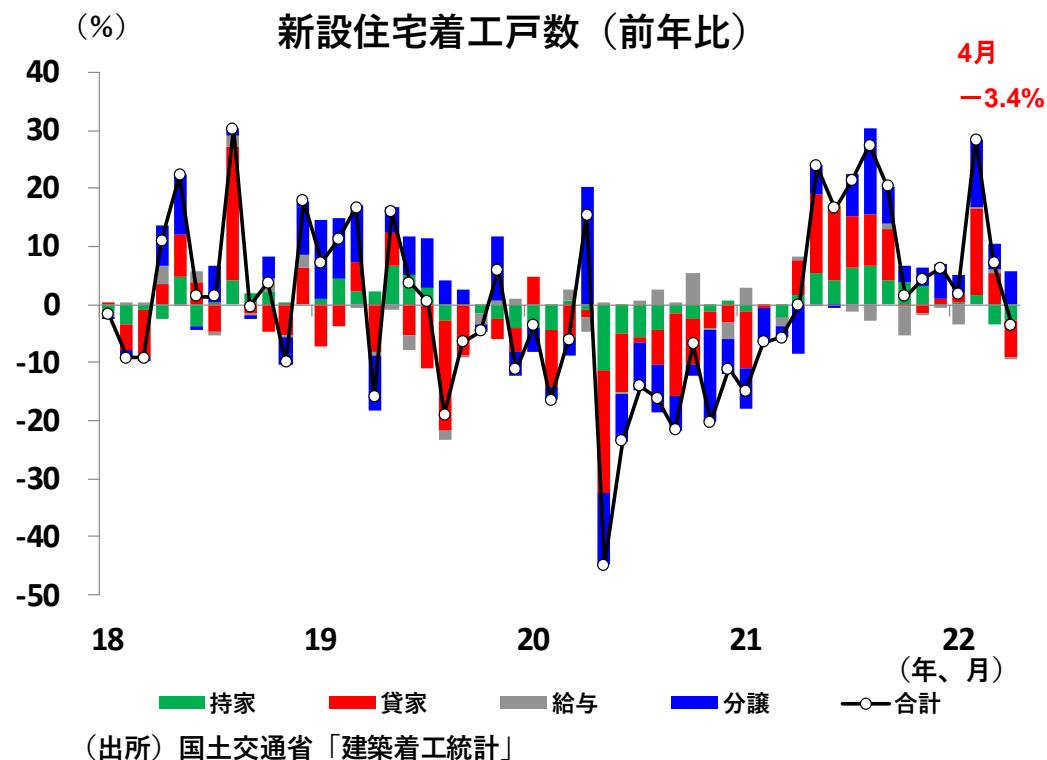
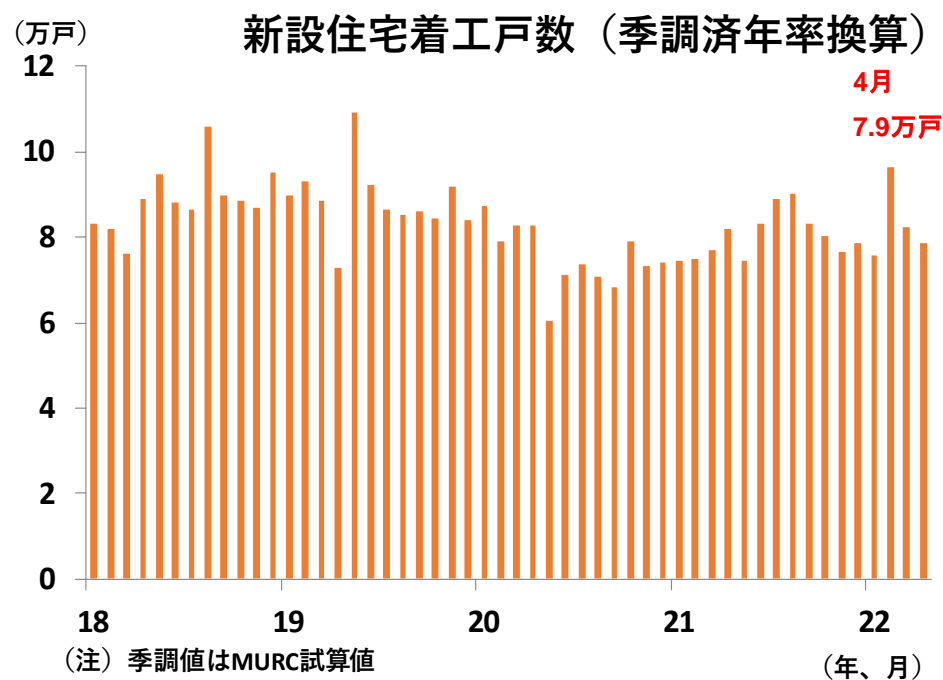


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



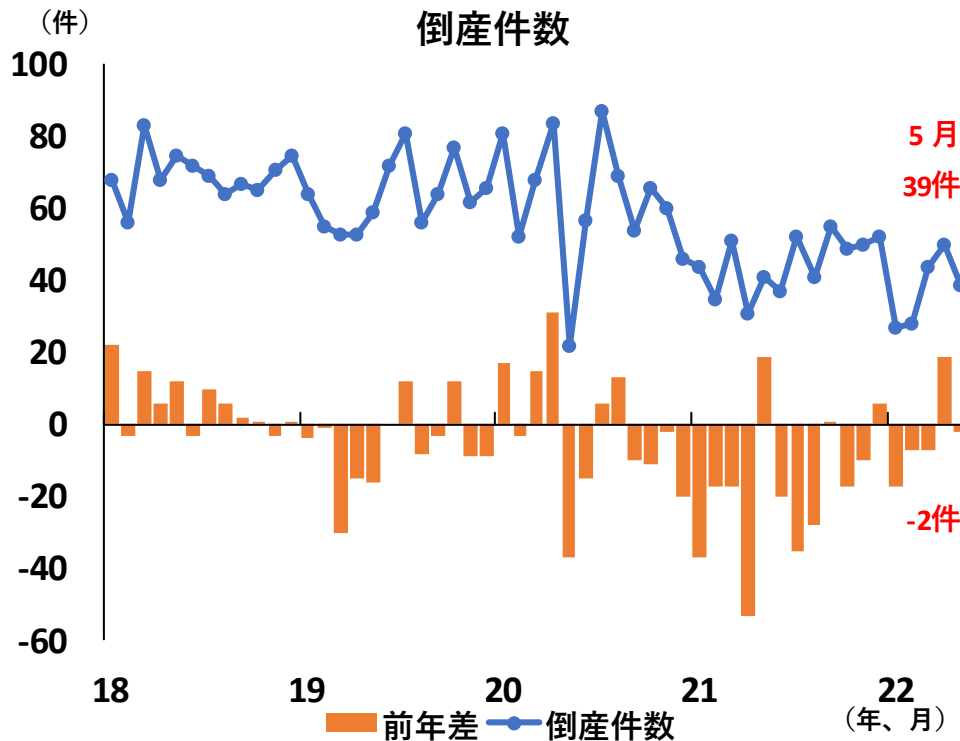
住宅投資

4月の住宅着工は季調・年率で7.9万戸と前月から減少、均してみると横ばい圏で推移している。前年比では-3.4%と12ヵ月ぶりに減少。分譲が増加したが、持家、貸家が減少した。



倒産

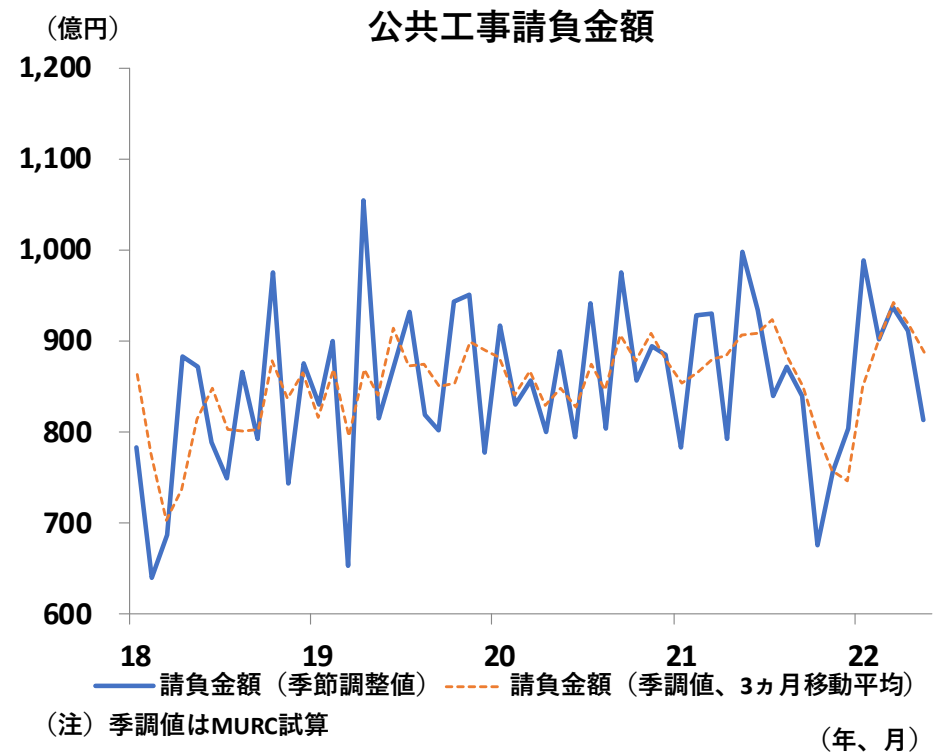
5月の倒産件数は39件と引き続き低水準で推移している。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

5月の公共工事請負金額は、前年比-17.8%と減少したが、4-5月の累計ではほぼ前年並みであり、均してみると横ばい圏で推移している。



(注) 季調値はMURC試算

(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください